

木造五層八角形・三国のシンボルだった 龍翔小学校



龍翔小学校(明治9年)

- 三国尋常高等小学校(明治25年)
- 三国南小学校(昭和22年～現在)

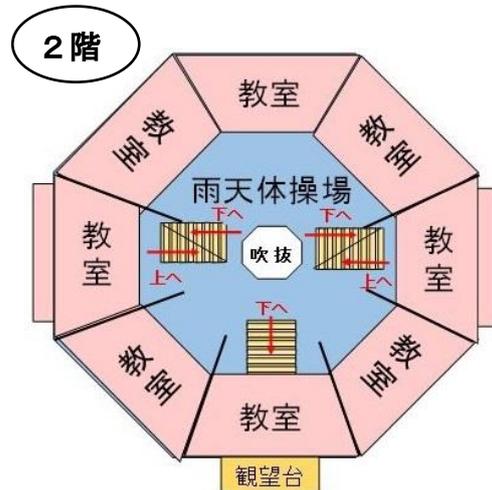
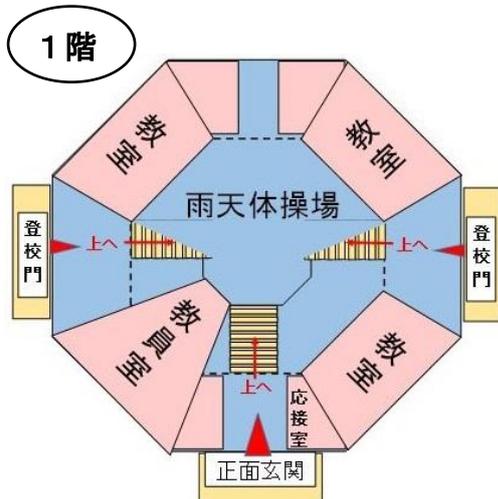


龍翔小学校校舎模型：1915(大正4)年頃製作

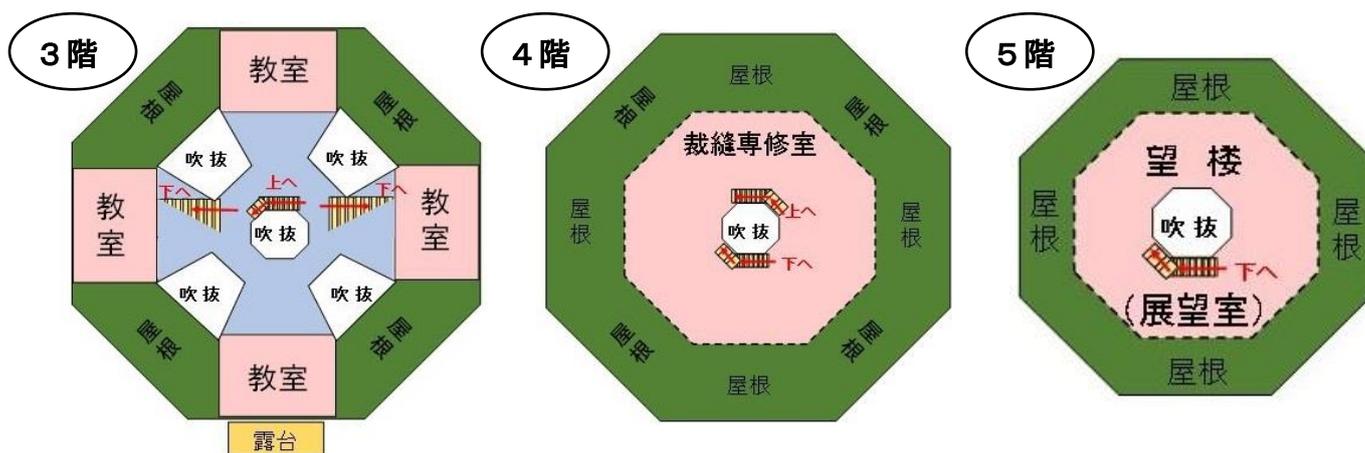
明治12年完成直後の校舎遠景
(現在の南小学校は、三国町山王)

1872(明治5)年、学制により新しい教育の制度が始まり、日本中の町や村には小学校が作られました。産業を^{さんぎょう}発展させ近代化を進めるため、教育は^{じゅうよう}重要でした。

当時、三国^{みなと}湊はとても^{はんえい}繁栄していて、人々は三国のシンボルとなる小学校建設を計画しました。オランダ人エッセルが設計し、日本のどこにもない五層八角形の偉容を誇る、龍翔^{りゅうしょう}小学校が愛宕山^{あたご}の上に建てられました。



巨額きょがくの建設費けんせつひすべて、人々からの寄付きふで集められました。
 子どもたちは、この学校を誇りほこと愛着あいちゃくを持って「こうもり傘の学校」と呼びました。5階の展望室てんぼうしつ（望楼ぼうろう）からは、遠く福井市まで見えたそうです。



校舎の入り口は三つあり、来賓・教員入り口、男子入り口、女子入り口に分かれていました。

2階は男子教室、3階と4階の半分は女子教室でした。当時は男女が同じ教室で学ばなかったのです。

また、4階のガラス窓の上の明かり取り窓は、オランダ製の色ガラス（赤・紫・緑・茶など）を使った美しい教室でした。

しかし、残念ながら木造で高台に建てられたため、強風や風雪で傷みが進み、校舎が傾斜したため大正3年に解体されました。当時の人々がこれを惜しんで、製作されたのがこの模型です。